

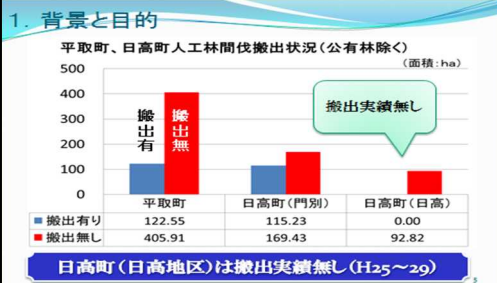
日高地域における林業の活性化に向けた取り組みについて

～地域課題である搬出間伐（列状）の普及推進～

日高北部森林管理署

【現状・課題】

地域の民有林では、搬出間伐（列状）が進んでいない現状があり、森林所有者が搬出間伐（列状）の必要性和メリットを理解し定着していくことが課題となっている。このため、搬出間伐（列状）の定着に向けて、森林所有者の列状間伐に対する風倒等の不安を少しでも払拭することが必要となっている。



【これまでの取組】

日高地区の伐採予定民有林において、人工林の林分調査を行い「森林の健康診断書」を作成し、施業提案を実施した。また、ドローンを活用した現況調査を実施して、3D画像を作成し、立体的で分かりやすい説明をし、国有林の列状間伐実行箇所において、勉強会を実施することで、列状間伐実施への不安を少しでも払拭できた。

【取組結果】

① 民有林所有者への戸別訪問

より一層の搬出間伐（列状）推進のため、森林室平取事務所、沙流川森林組合とともに、日高地区の森林所有者へ戸別に訪問を行い、地域課題解決に向けた取組の趣旨及び内容について説明するとともに、国有林内における事業の見学会実施について案内したことで、周辺の森林所有者の見学会参加につながった。



② 民有林実務勉強会の実施

日高北部森林管理署職員が民有林行政などの実態を理解することを目的とするに勉強会を、森林室平取事務所職員の協力により実施し、地域の課題の背景への理解を深め、今後の活動を充実させることにつながった。



③ 国有林事業見学会

森林所有者、日高町林務担当職員を対象とした、国有林の間伐事業実行箇所を見学し、ドローンを活用した林況把握について民有林で実施。林況を把握することで、事業の流れや間伐の考え方などについて理解を深めることができた。



④ 民有林伐採箇所の詳細調査

伐採予定箇所において、署・沙流川森林組合・森林室平取事務所と所有者による詳細調査を実施。標準地調査（20m×20m 2箇所）・搬出路及び土場位置や伐採木の確認などを行った。この調査では、ha当たりの本数及び材績を把握することから事業費などを算出した。



【取り組みの成果】

平成30年は、約10haの民有林で列状間伐を実行、平成31年度以降も引き続き周辺の民有林において、列状間伐を実施していくこととなった。

【今後の目標】

森林所有者等に対して見える形で、搬出間伐（列状）の普及に向けた取り組みを通じて、地域の低コスト施業の方法の確立と森林資源の有効活用を目指す。